

文科省の金子補佐が宇宙開発の現状報告に続けて米国予算教書の説明を10分余で行った後、20分強の質疑応答があった。続いて第4回の議事録が承認された。

池上委員長:2月1日の発表は何か、非常に良く準備をされてるって様な感じが御座いますね、で、あの、単にコンステレーションだけの話ではなくて、色んな資料があるんですが、其の内の一つにですネ、あの、OSTP、アメリカの Office of Science and Technology Policy の所長のホーズレンと、それからあのNASAのトップのゴルディンの連名で以て資料が出てるんですが、其の題名はですネ、Launching a **New Era**<sup>1</sup> in Space Exploration ってなってますね、つまりあの、宇宙、スペース・エクスプロレーションについての、その、新しい時代が始まったって云う様な事であの、色んな事が書かれて居ります。と云う事で御座います、色々ご意見があると思うんですが、どうぞご自由にご発言頂きたいと思えます。

青江:一つは、此れ見方の問題なんですけれども、ブッシュ・ビジョンが発表された時って云うのはですネ、言ってみれば**アメリカのシビルの方の宇宙開発がISS、地球近傍から探査ヘグッとまあ、振れたと言いましょか**ですネ、軸を其方に置いたと云う風な、一種のまあ、大きな転換と云うのが為されたんだと云う風な事が大体言われとったですネ。大体そう云う

**風な見方って云うのは的確なんじゃないかと云う風に思う<sup>2</sup>ん**ですけど、今回の此れ、コンステレーション計画の中止と云うものを軸とした今回の決定と云うのは、ブッシュ・ビジョンの時にアメリカのシビルの宇宙開発の軸を探查に置いた、其処の処はどう、どう、...変わったと云う風に思うのか、其処の処の軸の置き方は、従前通り、...やっぱりエクスプロレーションを中心軸に於いて、諸般の色んな事を対応して行くって言うか、考えて行く。此処の処は変りが無いと云う風に考えるのか、それとも何等かもう少し、斯う、所謂まあ、振れたと云う風に思うのか、どっちかナァと云うのが一寸良く分からないとこなんですネ。どう見ますかネ。

松尾参事官:宜しゅう御座いますか。あの、確たる見方は無いの

<sup>2</sup> 此れもそれ程大それた話ではないと思う。宇宙活動の黎明、ゴダード、オーベルト、ツィオルコフスキーが共通して宇宙旅行を目標に掲げた様に、宇宙旅行は人類共通の強い動機だと言えよう。また、宇宙に出て行く為の技術を開発して行った先に間違いなく存在する、宇宙技術が無ければ達成出来ない大きな目標は「火星移民」であり、其れ以外は大体他の手段によっても得られるものが多い。軍事組織が利用する場合はその限りではなく、其の時代に最も有効な技術が採用されるものである。

また、現在当たり前の様に航空機に使われているジェットエンジンは、初期の航空機には全く使われて居なかった様に、技術は段階的にしか進歩しないものである。従って、現時点では誰も「火星移民」を目標に掲げる事はしない。従って、其処に至るまでの途中に、適切な中間目標を設定し、其処に向かって科学者、技術者の英知を結集するのである。

<sup>1</sup> 此れは常套句であり、取り立てて話題にする程の事は無い。

かも知れませんが、あの、青江委員が今仰った様な感じではですネエ、大きな変更って云うのは必ずしも有ったものではないのではないかと。

青江:と云う感じがしますですネ。

松尾参事官:あの、軸足はですネ。其のアプローチの仕方は大きく変わったと思います。あの、ゴルディン長官のプレスリリースもありましたけれども、旧来のアポロ計画の様なアプローチで、月に再度行くと云う事ではない、別なアプローチで月に特定せず、順番をフレキシブルにしながら探査を進めて行くと云う事には重点を置く事は書いて居りますので、その、大きな軸足はあんまり変わってないのでは、ただ、アプローチが変わってるのではないかと、斯う云う受け止め方を致しましたけれども。

青江:そんな感じがするんですネ。**エクスプロレーションが主軸<sup>3</sup>**と云う、其の点に於いてのアレは、変りが無いんだと云う気が

<sup>3</sup> 「主軸」と云うのは言い過ぎだと思う。「其の前にやる事があるだろう。」という言葉が良くある様に、「通信衛星や地球観測衛星で宇宙利用の有効性を先ず示せ。」とか、究極は「雇用問題がこれ程厳しい中で、何で宇宙に出て行かなければならないか。」と云う議論も大いに考えられる。現に、中国の皇帝は外洋船を焼き払って、国内問題の解決に集中した前例もある。

また、宇宙探査は火星移民の目標達成の途中にある目標でもあり、「大気圏を通過する為のより効果的な方法の開発」と比べた時、どちらが優先とか云うものではなく、どちらも大切と云うものであって、其の様な対象が沢山横並びしているのである。

…。それからもう一寸、あの、これは中身読めば書いてある事なのかも知れないけどネエ、例えばエクスプロレーションの処にネ、大型ロケット推進系に係る研究開発と斯う書いてありますネエ。此れどんな事をしようとしてるんだろう。次世代のロケットの推進技術に係る研究開発。

松尾参事官:宜しいですか。あの、此処はですネエ、色々資料は読んでみたんですが、**余り具体的には書かれてません。あの、一段の推進系を開発すると云う事は、レイスイ(?)入ってますけれども、斯う云うものは開発の要素に含みうると云う風**に書いてありますが、あの、例えばオーガスティン・レポートで言って居た様な、ELV...あの、今迄NASAが民間に頼んで開発していたデルタ- とかの派生形を使って行くのか、シャトルの派生形を使って行くのか、新たな開発をするのかと云う事のどれを選択したかとか云う事はあまり書かれて**なく<sup>4</sup>**て、何れにせよその、次世代の大型ロケット開発を斯う、或る意味、基盤技術を一から開発して行く様な感じで書かれています。

青江:ウン、あの、其れは多分、例えば JAXA のロケットの専門家なんか心してる事なんじゃないかと云う風に思うんですけどネ、此処に書いてある次世代のロケットの推進技術。其の、

<sup>4</sup> 具体的に書かない理由の一つは、フィージビリティ・スタディから始めると云う意味かも知れない。日本より米国の方が初期段階に時間と人と金を掛ける。また、ロケット(Launch Vehicle)を開発すると言わずに推進系を開発すると書いたのは、空気吸込みエンジン、例えばラムジェットを想定している可能性もある。

所謂、新しいロケットのネ、何とかライザ(?)とか何とかと云うもんじゃないですネ。推進技術なんですヨネ。だから、今の様なあのコウシテッテン(?)に基づく推進技術じゃない次世代のと云う事なんでしようネエ。

松尾参事官:少なくともそう云うものが含み得る、含まれて得ると。

青江:ウン、そう云うものだと、こりゃどう云うものなのか。とかネ。エエト、其の上にも書いてある所謂「基幹技術」、要するにエクスプロレーションの為のその所謂、従来の技術の、まあ、一種延長にある様なものではない、かなりこう、所謂革新的な、先進的なそう云うものに何時もトライをしようとしてる<sup>5</sup>訳ですネ、多分。其処の、エエト、どう云うんですか、大体どう云うものと云うのは少し調べて教えて欲しいんですヨネエ。

松尾参事官:ア、あの、了解致しました。私共も其処は大きな関心の或る一つで御座いますので、アメリカと機会ある毎に一寸お聞きして、又、ご報告申し上げたいと思います。

青江:はい。

池上委員長:あの、今の点に関連致しましてですネ、基本的認識

---

<sup>5</sup> 「大型の」と言っているのは、地表から軌道までの輸送における推進技術を指している様で、「探査の為の」と云う表現は間接的なものであろう。惑星間飛行に関して言えば、原子力熱推進などの方法もあり、日本で取り組んでないものが沢山論文で紹介されているだろう。沢山ある代替案の内、完成させたい時期を絞ると自ずから候補が絞られ、予算と人材に合わせて更に絞り込まれるだろう。ショーケースに入れる品物のリストは比較的容易に作れると思われる。

としてはですネ、結局アメリカが宇宙探査に関する最先端技術の開発に後れを取った<sup>6</sup>と云う認識が良く読み取れるんですヨネ。其の理由としてコンステレーション計画が上がってって云うところが、必ずしも僕はネ、良く分からない点が無い訳じゃないんですけれど、つまりコンステレーション計画って云うのはブッシュ・ビジョンから発生をしたと。ところが此れはMIT のレポートでもそうだったんですが、あの、方向は出されたけど予算が全然付いていなかったと。従って、遅れてしまったと云う事と、予算が付かない結果ですネ、古い技術、アポロからの技術をそのまま流用するやうな事やらざるを得なかった<sup>7</sup>と。で、其の結果としてですネ、どう云う事が起きたかって云うと、コンステレーション計画について言えば、予算が付かなかつた為に、本来は2020年で出来る予定のものが、若し今金を入れたとしても、多分 5~6 人の人を月に持ってくるにはですネ、2030 年位まで掛ってしまうんじゃない

---

<sup>6</sup> 此れは極論に過ぎるのではないか。「基幹技術実証」に書かれている項目は随分昔から語られているもので、目新しくはないが容易に獲得出来るものでもない。アメリカでも実現していないし、他の国でも実現していない。其れを「遅れ」と云ったら身も蓋もない。ただ、ISS への人員輸送手段がソユーズ一つになる事は由々しき問題であり、此のプロジェクトは進められる事になるう。

<sup>7</sup> 根拠のある論理手順なのだろうか。シャトル退役後の有人輸送の欠落を埋める為、予算と敷居を下げて時間を優先したのがEELV など一連の使い切りロケット計画だったのではないか。実際には、決して低い敷居ではなかったと思われる。

かと。ですから、しかも、金が掛って、尚且つ予定が延長する様なその、コンステレーション計画って云うのはあの、少なくとも今選択できないと、で、ま、キャンセルすると云う事になっていて、で、其の結果その、カッティング・エッジ・テクノロジーも遅れてしまったと云う様な言い方もしてる訳ですネ。ですから或る意味ではですネ、

青江: あの一、もう少し端的に言うとネ、

池上委員長: エエ。

青江: 多分、多分ですネエ、所謂コンステレーション計画と云うのが、どう云うものであったのかという点から見ればですネ、その一、アレ、コンステレーション計画のアレ、ロケットのアレス1 にしたりアレを見れば、全部過去のものをヒコズツて(?)と言いましょか、

池上委員長: ええ、そうですネ。

青江: 充当、まあ、やや言い過ぎかもしれんけど、充当して作り上げる様な、其れでタイ(?)が掛かると。其れで今仰られた様なですネ、其の、所謂革新的な技術のそう云った処に**ほぼ手が掛らなくなった**<sup>8</sup>と。其の意味に於いて、そのまあ、イカンヲイダイ(?)したと云うか、遅れたと云うかネ。まあ、遅れたって言うのは、良い感じも一寸しないんだけど、要はまあ、其の革新的な次世代へと、斯う云う風な処にほぼ手が付かなかった。其れの反省の上に立って、「アレはやーめ

<sup>8</sup> SSTO の実験とか、新たな試みは沢山あったが、どれも最終的なシステム完成には至らなかつた。其れを「手が掛らなかつた。」と表現したら拙いのではないだろうか。

た。」それで、革新的。斯う云う展開じゃないんですかネ。

池上委員長: ですから一寸ですネ、日本的な言い方をすると、コンステレーションが全部悪かったと。悪者説で以て全体が組み立てられてる様な感じがするんですけどネ。...どうぞ。

井上: あの一、そう云う意味で言いますと、まあ、私の理解は、宇宙開発としてのあくまで最前線と云うのが宇宙探査にあると云う事は NASA もそうでしょうし、日本も同じくだと思うんですけども、ただその、コンステレーションって言って、月って言う時に、従来の考え方で月探査を考える限り、現在の予算状況等とは相容れない事がまあ、...まあ分かっていたのかも知れませんが、そう云う状況で元へ戻って、当に打ち上げ手段のコスト削減とか、そう云う処をキチッともう一回良く考えて進めないと、其の最前線を広げる事が出来ないというのが認識なんだと思います。ですから、此れはアメリカに限らず、我が国に於いても同じ事なんだと思います。

森尾: エエトあの一、此の、今説明して頂いた日本語の 1 頁目の下の表ですネエ。ザッと見て感じるのは、例えば宇宙科学が 44 億ドルで探査が 37 億ドル ISS が 60、組織横断的支援、何だか分かんないけど 31 と、此れ結構大きなポーション、英語で見ると Cross Agency Support となってますヨネ。翻って、日本で斯う云う予算の枠組み、取り方って云うか、出来るだろうか。例えば準天頂なんか考えると、文科省も経産省も、何とか省も色んなところが絡んでるけど、多分斯う云う取り方が出来るとですネ、準天頂のプロジェクトがもっとスイスイ出来そうな気もするんだけど、其の辺はその、やっぱり日本とアメ

リカの違いなんでしょうか。それとも、日本はこれから戦略本部とかが出来れば、段々斯う云う横断的な費用をキチンと予算計上出来るって云う風になるんでしょうか。

松尾参事官:あの、済みません。難しいご質問かも知れないんですけども、要を、的を得てないかも知れませんけれども、あの、多分此処の NASA の予算で言う Cross Agency Support って云うのは、所謂施設維持、組織維持的なものではないかと云う風に推察致します。従ってその、省庁横断プロジェクト、日本で言う省庁横断プロジェクトが此れだと云う事ではない様な、直ちには其れではない様な気が致しますので、

森尾:但しネエ、施設とか別にあるでしょう、其の下に。

松尾参事官:そうなんですけど、あの、例えばエエトですネ、英語のもう一寸詳しい奴だとですネ、此のクロス・エージェンシー・サポートって云うものの中は、その、センター・マネジメントとかオペレーションとか、そう云う、インスティテューショナル・インベストメントとかですネエ、あの、エージェンシー・マネジメントとかそう云う事が書かれていますので、やっぱり、

森尾:日本の場合、相当するのはやっぱりゼンヨサン(?)で.....

藤木局長:(マイクを通さないので聞こえない。)

青江:僕はそんな事だと思うんですが、其れから一方ネ、NASA は NIH みたいな事は決してないけれども、やや小ぶりだけれども、ファンディング・エージェンシー的な機能も持っていますヨネ。金額は決して大きくないけど、其れが、日本の JAXA

には無い。此処は大きな違いなのかもしれないですネ。あの、**キュウワヒャッコ( ISAS の事らしい?)の部分の、大学共同利用機関的なネ処が所謂実態論として、一部ファンディング・エージェンシー的な機能も其処で在る事は在るんですヨネ。何分にも小さい。それから NASA はそんな大きくはないけれども、そう云う機能が確かあるんですヨネ。だから、そう云うものを少し JAXA が持って、その一、まあ、大学とか産業界の先端的な部分を結集して、何かこう先行的、先端的なプロジェクト的なものに取り組む、斯う云った風な工夫<sup>9</sup>と云うのは少し考えられない事はないですヨネ。あの、比較的インハウスで、どうしてもやる事になってますヨネ。そう云う傾向ですから。**

池上委員長:今に関連してやっぱり、あの、**全体から見ると、ア**

<sup>9</sup> 夫々、国の社会的背景の中で、今の対処が作り出され行われて来ている。他国の政策や制度を見て、単に我が国には無良い方法であるからと言って、部分的に取り入れる事を安易に考えない方が良くと思う。ISAS が大学共同利用機関の道を選択したのは、大学の研究開発予算の多くを独占する結果になっていた事に対応したのであり、他の分野の予算に比べて宇宙予算が突出している事は今でも変わらない。其れが、JAXA 内部で比較すると、宇宙科学の予算が他の宇宙利用の予算に比べて小さいと感じる状態なのである。何時か、JAXA の立川理事が、「宇宙科学の予算はもう少し多いのが適正ではないかと私は思っている。」と云う主旨の発現をされた事を覚えている。此の様な事を確り分析して、少しずつ変化させて行くのが良いのではないだろうか。

アメリカのコンペティティブネスと云うのを強くするにはどうしたらいいのかって云うのがあって、で、展開されてる<sup>10</sup>様な感じが致しますヨネ。ですから全体でみると、あの、矢張り雇用の事が常に書かれていて、で、オバマはその雇用を増やそうって事を言ってるんだけど、此れで見ると、宇宙産業界に於いてもですネ、雇用を増やす様な方向に全体手して行こうとしてるってのは、此れ見えますヨネ。ですから、寧ろ科学技術と云う点から言いますと、若干宇宙で以てアメリカの科学技術を引っ張って、で、しかも雇用も増やして行こうって云う様な感じが読み取れて、で、豪(えら)い荷の重い事をやろうとしてるナと云う感じを受けるんですけどネ。ですから、此れ一応産業界の事も考えてる訳ですヨネ。で、雇用までも考えてる。

青江:と云うのはネ、雇用、雇用が出て来る、アメリカの場合其れを、雇用が出て来る時に、例えばシャトルをリタイアさせますと言ったら、雇用が無くなるからと云う反対が強く起こるんですヨネ。其れに対する配慮を当然する訳ですヨネ。当に地元対策なんですヨネ。産業界を強化しようという発想よりも、地元の、まあ、所謂、言う処の地元対策、其の配慮は随分働く、...けど、産業界を何かその、一種のコンペティティブネスと云う観点からと云う事の意味に基づく雇用・雇用と言って出て来るとは、とても思えないですネ。

<sup>10</sup> アメリカ合衆国全体として其の様な事を考えなければならない状況にある事は合意するが、此の予算教書を見て其れが読み取れるとは思えない。

池上委員長:いや、あの、例えばですネ、此処で3頁に書いてありますコンステレーション計画の中止に対して、金を25億ドル入れるって云う事は其の経過措置を考えてる訳ですネ。で、此れフロリダに対して或る種の約束をオバマが大統領になる前にしてるって話は聞いてるんですけども、一応アメリカの場合ソフトランディングをキチッと考えて、日本より考えてやってる<sup>11</sup>様な感じがします。

青江:従って地元対策なんです。

池上委員長:ええ、地元対策、基本的には。で、宇宙はですネ、打上げに行くと分かります様に、夫々の地元から支えられている代議士がやって来て、必ず打上げ見る訳ですネ。

青江:(発言が重なって聞こえない)言うんですヨネ。

池上委員長:エエ、そうです。

青江:だから、しょうがないから、

池上委員長:ま、しょうがないかどうかは別として、ヘッヘッヘ、

青江:やってんですヨ。

池上委員長:少なくとも、産業政策も取り組んだ様な形で宇宙開発をやってるって云うのは、一寸やっぱり日本とは違うナッ

<sup>11</sup> 中止する計画に予算を計上したからと言って、直ちに経過措置を考えている、ソフトランディングを考えて居ると直ちに評価して良いのだろうか。小職は政治問題を考える為に駐在したのではないから、米国の政治の仕組みは良く分かっていないが、此の評価は日本の常識に照らして分析しているように思えてならない。此の予算計上は、単に仕掛中の契約を完了させる為の費用であって、其れ以上の理由は無いのではなからうか。

て感じがしますネ。

青江: 其の意味の産業政策ネ。其の意味のネ。昔の産炭地政策みたいなもんですネ。

池上委員長: いや、どうも、暗いイメージしか、青江さんのお話の中から出て来ないんですけど、ただ、此れは矢張り、先端技術開発と云う処に注意してるとするとすればですネ、一寸やっぱり炭鉱の閉山とは違う様な感じがしますがネ、ヘッヘッヘ。

青江: まあ、色んな見方があると思いますネ。

井上: あと、あの一、教育って云う様な処にまあ、ほぼ 1%位のお金、予算が回されるって云うの、此れもあの、我々見習っても良い様な、若い人達をインスパイアするって云うのは大事な処で、日本は其処はもう少し薄いですヨネ。1 桁やっぱり、此れ 1% って日本で言うとまあ、JAXA レベルで言えば 20 億って金額になると思うんですけど、とても其のレベルになってない。

森尾: 今其の更に 1 桁?

井上: 1 桁よりあるかも知れませんが。

青江: 考えた方が良くかも知れませんネ。

池上委員長: 確かに今回、其の五つのネ、ポイント<sup>12</sup>の中の最後に書かれてるんですけど、やっぱり若者に対してエンカレ

<sup>12</sup> 資料 5-2-1-3 の NASA 資料(英文)の 3 頁目(p131)の六つのパラグラフの最後五つを「ポイント」と言っていらっしゃる様だが、其の前の頁の三つのパラグラフと同列で、全部で 9 項目としか見えない。

ッジする様なものが必要だと。で、あの、面白いんですけど、エンカレッジに中身がですネ、Science, Technology, Engineering and Mathematics って、数学が入ってるんですヨネ。確かにアメリカの場合ですと、基礎教育って云うと必ず数学が出て来るんですけど、日本は余り斯う云う云い方はしないですネ。どうして数学が重要なのか、必ずしも分かってる訳じゃ御座いませんけれど、まあ、何れにしても教育に対して力を入れる。

森尾: 日本でこれからやる、超小型衛星なんかは教育的な意味ってありませんか。

池上委員長: ウンウン、ウン。あとですネ、さっき云った五つのポイントの内の 4 つ目<sup>13</sup>に書いてあるんですけど、NASA が本来やらなかった仕事も今後チャンとやってくれよと。今迄コンステレーション計画があって、十分其処に目が回ってなかったと云う中にですネ、次の世代の航空輸送システムが上がってる<sup>14</sup>んです。で、此れは当然 JAXA と同じ様に航空ギケン(?)をジャクサン(?)持ってる訳なんですけど、矢張り、本来 NASA もあの、航空関係の、特にあの、エエト、環境問題とかですネ、或いは効率を上げるとかって様な事を、チャンとホントはやる事になってるんでしょう。で、其れをどうもネ、

<sup>13</sup> 発言の内容は 3 項目目についてのお話である。

<sup>14</sup> 「Green Aviation(多分排気ガスを綺麗にする航空技術)と高効率の航空輸送システムへの予算を増やした。」と、極めて平坦に書かれていて、「やるべき事が出来て居なかった。」と云うような表現は見えない。

チャンとやってなかった云う指摘もあって、地球観測に加えてですネエ、NASA も本来やるべき事は沢山あるんだナと、で、其れを今迄やってないって云う指摘があって、で、今後其れに力を入れるって云う事については、我々と同じ様なあの、立場にあるのかナって思ったんですけどネ。

野本: エエト、NASA の此の予算のを見て、当然宇宙ステーションとか月計画とか、日本に影響して来る部分があると思うんですネ。それで、今、此処の場で答えると言っても無理だと思うんですけれども、日本の計画にどう云う影響が出て来るのかと云うのを一寸考えて、あの、報告して頂けたら<sup>15</sup>と思います。

松尾参事官: はい、了解を致しました。あの、まあ、大きなところで申し上げますと、月に関しましては戦略本部の方の懇談会で今議論中なので、当に此れは、今迄もそうでしたけれども、此れをベースに日本の月探査有人活動はどうしてかかって云う議論が為されて行くんだと思いますし、其の意味で凄(すご)く大きな影響があると思いますし、エエその、あとまあ、JAXAの活動、文科省的に申し上げますとJAXAの活動にどう云う影響があるか、まあ、やっぱりアメリカとの協力って云うのはかなり大きなパーセンテージを占めますので、どう云う

<sup>15</sup> 若しかしたら今回唯一の重要なコメントではなかったか。報告書の小さな部分を取り上げ、其処から推測を膨らませた評価の議論をするより、冷静に分析した報告を求める事の方が大切である。また、此れは委員長が一連の議論の早い段階で要求するのが役目なのではないだろうか。

影響があるかって事を良く考えながら、来年以降の計画を考えてくって事は当然ですので、又、纏めてご報告申し上げたいと思います。

池上委員長: 今の点についてですネ、矢張り、今回の此のレポートで一番のポイントって、やっぱり ISS の話だって云う風に思うんですヨネ。で、アメリカは今迄 ISS って云うのは火星に行く為の人間実験の場として考えて居て、サイエンスについてあんまり積極的じゃあなかったと。で、今回の書き方ですネ、20年まで伸ばすと云う事と同時に、あの、ISSを上手く活用して行きましょと。つまりあの、有人のシミュレーションだけではなくて、其れ以外でも色々考えて斯うって言ってるんで、或る意味では ISS の使い方の知恵の出し合いの競争になる様な感じが致しますネ。ですから私としては日本が勝って欲しいと<sup>16</sup>思うんだけど、ひょっとするとアメリカの連中が本気になって ISS の実験室を使うって事になるとするとすれば、向うの方から良いアイデアが、より良いアイデアが出て来るって事もあって、ISS 全体としては喜ばしい事なんです、是非、あの、先程ご指摘あった様に日本でも頑張る様に方向をイヨウ(?)して頂きたい。或いはしてかなきゃいけないと思って居ります。.....他、何か御座いますでしょうか。...それではあのどうも有難う御座いました。

<sup>16</sup> 「競争」とか「勝ち負け」とか、そんな話ではないと思うが。まあ、未だに其の様な観点で考えている国が在るのではあるが。